



国立大学リスクマネジメント情報

2025(令和 7)年 8 月号

<https://www.janu-s.co.jp/>

特集テーマ

火災事故低減に向けた対策（３）

（一社）国立大学協会（国大協）では、火災事故低減に向けた対策として、2021 年度から大学の現地調査を実施しております。

本号では、2024 年度に実施された調査の報告書から火災防止に向けた対策として同協会が取りまとめた事例をご紹介します。

1. 火災事故低減に向けた対策

国大協では火災事故の低減による国大協保険の安定的な制度維持のため、2021 年度からリスクマネジメント専門会社に依頼して、大学の現地調査・ヒアリング等を実施しています。

2024 年度は 2 大学を対象に実施し、火災防止に効果的な好取組事例や対応が必要な事例として以下の報告がありました。

○ 火災事故のリスク低減に向けた好取組事例

- ① 構内全面禁煙の徹底
- ② 防災対策に精通した教員との情報連携

○ 火災事故のリスク低減に向けた対応が必要な事例

- ① 水場周辺のテーブルタップ管理強化
- ② コードリールの管理
- ③ アース線の接続
- ④ 電源コードの配線見直し
- ⑤ 冷蔵庫周辺の可燃物撤去
- ⑥ 危険物の保管管理
- ⑦ 薬品入り容器(瓶)の管理
- ⑧ 危険物貯蔵量の管理強化
- ⑨ 乾燥機の点検・更新
- ⑩ 自動粉末消火設備の設定管理
- ⑪ 静電対策の実施
- ⑫ 各防災マニュアルの活用



2. 火災事故のリスク低減に向けた好取組事例

(1) 構内全面禁煙の徹底

・全学部共通で、勤務中・就学中のみならず通勤・通学時、退勤・退学時も含めて全面禁煙としている。
また、昼休みの時間帯など、構内で隠れた喫煙実態がないかパトロールをおこなっている。
煙草起因の火災発生を未然に防止する観点から、積極的な取組を展開されていると考えられる。

(2) 防災対策に精通した教員との情報連携

・火災・災害の予防対策に関する業務の企画及び推進を目的とした「防火防災部」を組織している。
大学教員と環境安全課職員で構成され、令和 5 年度では合計 9 回会議が行われている。
当該会議体にて、各災害リスクに精通した教員から定期的に情報提供を受けており、実効性の高い防災対策を立案しやすい体制です。

3. 火災事故のリスク低減に向けた対応が必要な事例

(1) 水場周辺のテーブルタップ管理強化

状況	・シンクと冷蔵庫の隙間の床上に、テーブルタップが配線されており、周囲に埃が堆積している。	
問題点	・コンセントに差し込んだプラグの差し刃間に埃が付着して湿気を帯びると、トラッキング現象により出火するおそれがある。	
対応例	・コンセント周囲は定期的に点検し、乾いた布などで清掃する。また、水気がない位置にコンセントを移動したり、暫定的にプラグ型漏電遮断器を使用する。	

**(2)コードリールの管理**

状 況	・モーターポンプの電源用コードリールが巻かれたまま使用されている。また、定格電流を超えた電流になっている。	
問 題 点	・コードリールの定格電流を超えた電流値でコードを巻いたまま使用すると、熱を放射できず蓄熱され、出火に至るおそれがある。	
対 応 例	・コードリールの電源線はすべて引き出して使用する。また、漏電遮断機能付きのコードリールに変更したり、長さが短いコードに変更する。	

(3)アース線の接続

状 況	・電源コンセントにアース線が接続されていない箇所が見受けられる。	
問 題 点	・万一漏電が発生した場合、スパークが塵埃や可燃物に触れることで火災に至るおそれがある。	
対 応 例	・アース線は確実に接続する。また、他の箇所も同様にアース線が接続されているか点検を行う。	

(4)電源コードの配線見直し

状 況	・電源コードが窓越しに吊るして配線され、コードにストレスがかかっていると思われる箇所が見受けられる。	
問 題 点	・電源コードに過度なストレスがかかっていたり、窓の開閉時に挟まることで、半断線による短絡、過熱による出火のおそれがある。	
対 応 例	・電源コードの吊り配線状態を解消するとともに、窓や扉を跨いだ配線ではなく、室内ごとで電源を確保する。	



(5) 冷蔵庫周辺の可燃物撤去

状 況	・ 冷蔵庫の周囲に段ボールなどの可燃物が置かれている。	
問 題 点	・ 冷蔵庫の故障などにより出火した場合、周囲の可燃物を媒体として火災が拡大するおそれがある。	
対 応 例	・ 周囲の可燃物を撤去する。	

(6) 危険物の保管管理

状 況	・ 実験室奥の計測室内に、危険物第四類第二石油類であるキシレン入りの瓶が床上に置かれている。 （この瓶は現在実験などでも使用しておらず、管理者も不明であった）。	
問 題 点	・ 瓶が転倒しキシレンが漏洩した場合、引火点が低く火源が付近にあれば火災に至るおそれがある。	
対 応 例	・ 危険物貯蔵所など所定の場所で保管する。なお、不要な危険物は早期に廃棄するとともに、他場所を含めて点検を行い、危険物の管理者を明確にする。	

(7) 薬品入り容器(瓶)の管理

状 況	・ 実験に使用する薬品の入った瓶が、一時的にそのまま机の上に置かれている。	
問 題 点	・ 地震の揺れや不意な接触などにより、薬品容器が転倒または落下すると、容器が割れて内容物が漏洩するおそれがある。また、漏洩した液体が海洋にも流出するおそれがある。	
対 応 例	・ 薬品容器（瓶）は直置きせず、転倒・落下防止用ホルダーや囲みを設けるなど、安定した場所で保管する。	



(8) 危険物貯蔵量の管理強化

状 況	倉庫室内の軽油・ガソリンは指定数量未満の範囲で管理されているが、他に危険物第四類第一・第二石油類に該当する塗料も多量に保管されていました。	
問 題 点	危険物の貯蔵総量が管理されておらず、今後も貯蔵量が増加するおそれがある。室内の危険物貯蔵量が指定数量の五分の一以上となった場合、火災予防条例違反となる。	
対 応 例	指定数量の五分の一以上とならないよう、危険物保管量をリスト化するなど、管理強化を行う。	

(9) 乾燥機の点検・更新

状 況	実験器具を乾燥させる為、乾燥機を使用しているが、非常に古い機種（平成9年製）を使用している。各研究室においても同様の用途で乾燥機が使用されている。	
問 題 点	設定温度は50程度と比較的低温であるが、長時間発熱する機器の為、機器不良に伴い火災が生じるおそれがある。	
対 応 例	学内にて乾燥機の耐用年数を設定し、古い機種について適宜更新を進める。（特に過昇温防止機能が内蔵した機種へ更新することで火災リスクを低減することができる。）	

(10) 自動粉末消火設備の設定管理

状 況	教員・生徒が在室中においても自動粉末消火設備が「自動起動」に設定されている。	
問 題 点	居室内に人がいる状態で消火剤が放出されるおそれがあり、消火設備による事故を誘発するおそれがある。	
対 応 例	教員・生徒が在室中の際には、「手動起動」に設定する。やむを得ず「自動起動」とする場合には、消火剤が放出される前に避難が実施できるよう、避難手順を明確にしておく。	



(11) 静電対策の実施

状 況	・各研究室にて危険物の小分け作業が実施されているが、静電気対策が実施されていない。	
問 題 点	・危険物第四類第1・2石油類は引火点が低く、静電気による火花で引火することがあり、火災を引き起こす可能性がある。	
対 応 例	・引火点が低い物質を扱うときは、静電気除去を行う。	

(12) 各防災マニュアルの活用

状 況	・貴学では環境安全部、各部局にて防災マニュアルを作成し、有益な情報が記載されているが、学生間で十分に認識されておりません。	
問 題 点	・マニュアルの内容が学生に対して伝達されておらず、防災効果が限定的である。	
対 応 例	・マニュアルのWeb配布に止まらず、すべての生徒に対して防災マニュアルを説明する。	

火災防止チェックリストを使ってください！！>

研究室、事務室における火災防止のための基本的な項目をエクセルのチェックリストにしました。

添付の解説書を読むことでなぜチェックが必要か理解できます。

大学の火災事故が増えています！！点検を行ってください！！

入手はこちら ⇒ https://www.janu-s.co.jp/fire_accident.html



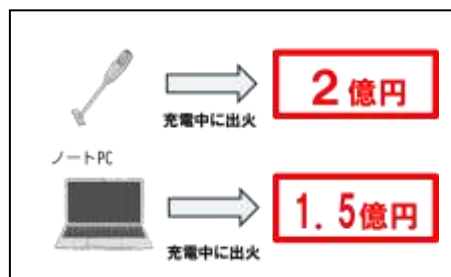


<関連情報> リチウムイオン電池による火災事故について

スマートフォン、ノートPCやハンディファン等、最近の電化製品の多くにリチウムイオン電池が使われており、たびたびリチウムイオン電池による火災事故がニュースとなっています。

東京消防庁によると住宅火災におけるリチウムイオン電池に起因する火災が令和6（2024年）中は106件発生し、過去最多となったとのこと。

メニュー1の保険金支払いの対象となる事故でも、掃除機用バッテリーの充電中に出火、ノートパソコンのバッテリーの充電中に出火した事故が発生しています。火災発生後に燃え広がり、焼損や煙・煤被害等で、建物・研究機器等に広範に被害を与え、それぞれ約2億円、約1.5億円の保険金支払額となっています。



研究室等で充電を行う際には、下記を参考にしてください。

特に夜間や無人化に火災が発生すると、初期消火が間に合わず被害が拡大することがあるため、**必ず人がいる場所、人がいる時に充電を行いましょう。**

火災を防ぐ6つのポイント(東京消防庁 HP より)

1. 製品に衝撃を与えない。むやみに分解しない
2. 整理整頓された場所で充電する
3. 製造事業者が指定する充電器やバッテリーを使用する
4. 膨張、充電できない、バッテリーの減りが早くなった、充電中に熱くなるなど異常がある場合は使用をやめ、製造事業者や販売店に相談する
5. 熱のこもりやすい場所での使用は控える
6. 万が一の被害に備え、不燃性のケースなどに収納する

東京消防庁 住宅でも注意！リチウムイオン電池関連火災

https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/lfe/kasai/lithium_house.html

東京消防庁 リチウムイオン電池搭載製品の出火危険

https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/lfe/kasai/lithium_house.html



2025. 6 月

大学リスクマネジメント News PickUp

<Web から大学（国立以外含む）関連ニュースを検索>

<大学の管理・経営>

7. 18 ○大学の准教授が常習的な遅刻やハラスメントなどを理由に助手に降格された懲戒処分は無効などを求めた裁判で、地裁は「根拠となる具体的な事実を認めるに足りない」などとして処分の無効を認め、給与や賞与の差額分を支払うよう命じる判決を言い渡した。一方で、原告側が求めている慰謝料の支払いなどは認めなかった。

<事件・事故>

7. 3 走行車線を走っていた○大学のスクールバスが前方のトラックに追突する事故があった。この事故により、バスに乗っていた大学生5人と助手席にいた教員が軽いケガをしたが命に別条はなかった。現場は、片側2車線の見通しの良い直線道路で警察が事故の原因を調べている。
7. 6 ○大学のレスリング部で5月、部員が別の部員3名がインターネットで購入していた大麻成分を含むとみられるクッキーを食べた後、寮の2階から飛び降り、頭の骨を折るなどの大けがをしていたことがわかった。警察の調べでは、違法成分は検出されなかった。同大レスリング部は4名を一定期間の公式試合出場自粛とした。
7. 9 ○大学の教員から工学部で行われていた実験中にボンベが爆発したと消防に通報があった。教員1人がケガをして病院に運ばれたが命に別条はない。また、学生1人が爆風を受けて体調不良を訴えたもののケガはなかった。
7. 14 ○大学の研究員が保管していた猟銃が暴発した。銃弾は近くのマンション5階の窓ガラスを突き破って、この部屋から見つかった。当時、マンションの住人は不在で、暴発によるケガ人はいなかった。研究員は、猟銃を所持する許可を得ていたということで、警察は、なぜ暴発したのか当時の状況を調べている。
7. 18 ○大学付属病院で2021年、死亡のリスクを十分に説明せずに胆管の内視鏡検査を実施し、女性を死亡させたなどとして遺族5人が学校法人と担当医の教授に計約2億2000万円の損害賠償を求めた裁判で、地裁は「検査の危険性について説明を尽くす義務に違反した」として計約6300万円の支払いを命じた。大学側は死亡のリスクを説明したと主張したが「検査の緊急性は高くなく、説明義務を果たしていれば検査を受けなかった」として、死亡との因果関係を認めた。一方、教授が内視鏡を挿入した際に胆管に穴が開き、急性膵炎の重症化で死亡したとする遺族側の主張については「検査方法やその後の対応に義務違反はない」と退けた。
7. 24 ○大学の敷地内で体長50センチのクマが目撃された。大学は、管内の放送などで注意を呼びかけた。大学の近くには小学校、中学校、高校があり、夏休み中で部活動も行われているため、警察は、バトカーでパトロールを実施している。
7. 24 3年前、○大学付属病院に入院していた女性がたんの吸引を定期的にする必要があったが、のどに詰まらせるなどして死亡した経緯をめぐる、遺族は、必要な医療措置を怠った業務上過失致死の疑いがあるとして病院の医師らを刑事告訴した。女性は自分でナースコールを押すことができない状態だったにもかかわらず、亡くなった際に呼吸状態などを確認する「モニター」が装着されていなかった。
7. 30 2021年に退学となった○大学を名指して「大学の奴らを皆殺しにする」「学長を殺す」などとインターネット掲示板に繰り返し書き込み、脅迫した疑いで男が逮捕された。男は「退学になって頭にきてやりました」と容疑を認めている。
7. 31 ○大学付属病院の職員控室に侵入し、職員2人の現金あわせて約1万3000円を盗んだとして元職員（4月に退職）が建造物侵入と窃盗の疑いで逮捕

<入試等関連>

7. 24 ○大学は、2025年度個別学力検査等（前期日程）において出題ミスがあったことを公表。出題ミスが公表されたのは、学校教員養成課程の「地理歴史・公民」の問題で、正しい文を選択させる問いのところ、選択肢がすべて「誤り」となっていたことが判明した。該当問題については「正答なし」のため、全員正解として扱われたが、合否判定には影響しないとされ、特段の措置は講じない。
7. 28 ○大学の入学者選抜試験（前期日程）の「化学」の試験で採点ミスがあった。番号を選ぶ二者択一の問題で誤った回答を正答としていた。対象の受験者178人の採点を改めて行ったが、合否に影響はなかった。

<ハラスメント>

7. 10 ○大学の学長が2025年2月の入試に関する会議で、女性教授が質問したり意見を述べたりすると、ペンを机にたたきつけ、指をさして叱責。会議後「バカ」「あなたに会議に入ってほしくない」などと発言し、ハラスメント



- トをしたとして運営する学校法人から嚴重注意処分を受けていた。女性教授から相談を受けた学内のハラスメント防止委員会が調査し、学長はこれらの言動を事実と認めた。
7. 11 ○大学を運営する学校法人は、教授が指導する大学院生に精神的苦痛や不快感を与える言動があったとして出勤停止1カ月の処分にしたと発表。被害にあった大学院生から学内のキャンパス・ハラスメント相談員に通報があり発覚した。
7. 16 ○大学は、附属病院の医師が2024年8月、業務中に些細なことで激高し、一緒に業務にあたっていた看護師に対して大声を出したり高圧的に怒鳴るなどし、上司から注意・指導を受けたにもかかわらず、10月には、先輩医師から業務中に注意を受けた際、逆上して暴言を吐き、その場にいた看護師たちの前で執拗に暴言を繰り返すハラスメントをしていたとして戒告処分にしたと発表。
7. 17 ○大学を運営する学校法人は、部長級職員が部下の女性職員に対して性的な言動を行ったとして懲戒解雇処分にしたと明らかにした。被害にあった女性職員から、法人内で設置されている相談窓口相談を受けて発覚し、ハラスメント調査委員会による調査の結果、セクハラに該当すると認定された。

＜学生・教職員の不祥事＞

7. 2 ○大学附属病院の看護師が2024年10月、15歳の男子中学生をSNSで誘い出して、ホテルでわいせつな行為をしたとして不同意性交等の疑いで逮捕され、6月2日に懲役3年・執行猶予5年の有罪判決を受け、7月1日に懲戒解雇。
7. 3 ○大学の学生がコインランドリーの駐車場で、駐車中の車内で下半身を露出していたとして公然わいせつの疑いで逮捕。学生は容疑を認めている。
7. 5 ○大学の学生が知人の大学生に対し、千枚通しで太ももを刺してケガをさせたとして傷害の疑いで逮捕。刺された大学生は軽傷で、自力で保健室に駆け込み110番通報した。学生は容疑を認めていて「トラブルになりけんかになった」などと供述している。
7. 9 ○大学の学生が大学内の図書館で女子大学生から、定期券や自宅のカードキーが入ったパスケース(時価4500円相当)を盗んだとして窃盗の疑いで逮捕。学生は容疑を認めていて「交通費を浮かせるために定期券を盗んだ」と話している。大学内では同様の被害が8件確認されていて、学生の関係先からは、今回盗んだパスケースのほか他人名義のカード類が複数見つかった。
7. 12 ○大学の学生がSNS上で知り合った未成年の女性をわいせつ目的で誘い出し、誘拐したとしてわいせつ誘拐の疑いで逮捕。
7. 14 ○大学の学生がショッピングセンターで、ボールペン23本あわせて3万8733円相当を盗んだとして窃盗の疑いで逮捕。学生は容疑を認めていて、盗んだボールペンは売って、遊ぶ金や飲食代にしていた。市内では5月からボールペンや万年筆の窃盗事件が7件起きていて、警察は学生の犯行とみて余罪を調べている。
7. 15 ○大学の准教授が大学の敷地内で女性に学内での地位を利用して性的暴行をした疑いで逮捕。女性が警察に相談して事件が発覚し、准教授は容疑を否認している。
7. 16 ○大学の助教が、2023年11月23日に勤務先から帰宅中に自家用車で人身事故を起こし大けがを負わせたとして、減給処分
7. 16 ○大学附属病院の元臨床検査技師が2024年12月16～19日、都内のホテルに虚偽の宿泊予約を入れて無断キャンセルを繰り返し、1700万円超の損害を与えたとして偽計業務妨害の疑いで逮捕。臨床検査技師当時、業務用パソコンなどから予約サイトに接続していた。
7. 17 ○大学の学生が交差点でミニバイクを運転中に一方通行を逆走。歩いている女性に衝突し、あばら骨や右足骨折の重傷を負わせ、走り去ったとして自動車運転処罰法違反(過失傷害)と道交法違反の疑いで逮捕。学生は、警察に出頭し、調べに「酒を飲んでいたので覚えていない」と容疑を否認しており、道交法違反(酒気帯び運転)の疑いでも調べている。
7. 19 ○大学の学生が走行中のバスの車内で、10代女性の上半身を服の上から触ったとして県迷惑防止条例違反の疑いで逮捕。犯行を目撃した乗客が学生を取り押さえた。
7. 19 自称大学1年の男が大学の女子学生宿舍1階のシャワー室内に侵入したとして住居侵入の疑いで現行犯逮捕。宿舍に住む女子大学生が発見し、110番通報した。
7. 23 ○大学の元柔道部の学生が大麻を使用したとして麻薬取締法違反(使用)の疑いで再逮捕。尿検査で大麻使用の陽性反応が出た。学生は、6月13日にレンタカー内で乾燥大麻約70グラム(末端価格約35万円)を所持していたとして麻薬取締法違反(営利目的所持)容疑で7月3日に逮捕されていた。大学は、所属していた柔道部を活動停止にしていた。学内調査では、大麻に関与したほかの部員は確認されていない。
7. 23 ○大学の男子学生が面識のある男性に対し、同意しない意思を形成することが困難な状態に乗じて、みだらな行為をしたとして不同意性交等の疑いで逮捕。
7. 25 ○大学の学生が10代女性の住むマンションの一室に侵入して、下着や財布などを盗んだとして窃盗と住居侵入の疑いで逮捕。学生は、容疑を認め「ほかにもわいせつ行為や盗撮を数件した」と話している。



海外三二情報

※ WEB 上の海外ニュースから海外の大学の動向をピックアップ

< 米:国際教育交流の支援予算・プログラムの大幅削減 >

アメリカ国務省は 8/13 に 2025 年度の国際教育交流支援予算を 1 億ドル削減し、22 のプログラムを停止すると通告しました。現下の財政状況において優先度が低いと判断したとしています。ホワイトハウスの行政管理予算局の指示によるもので、連邦議会で承認された予算を政府が停止するのは異例です。9/30 の会計年度末を控えた突然の措置で約 1 万人の学生に影響があり、関係団体は手続の合法性に疑問があるとして抗議しています。フルブライト奨学金は継続を認められていますが、9.11 後の 2002 年にムスリム国との相互理解を進めるために創設された YES Program や 2014 年以来アフリカ諸国から 7200 人を受け入れている Young African Leaders Fellowship などの重要なプログラムが停止されることは国際関係上も問題であるとの指摘もあります。

なお、2026 年度の国際教育交流支援予算については、政府は当初対前年度 9 割以上の削減を提案していましたが、関係団体のキャンペーンもあり、連邦議会下院は 7/14 に削減幅を 5.5%にとどめ 7 億ドルの計上を認めています。ただ、今回のような措置が認められるなら、今後も政府による一方的削減があり得ると懸念されています。

<https://www.chronicle.com/article/white-house-uses-back-door-to-axe-approved-funds-for-exchange-programs>

<https://thepienews.com/us-scraps-100m-in-study-abroad-programs/>

<https://thepienews.com/over-10k-urge-congress-to-save-us-study-abroad/>

<https://thepienews.com/trumps-study-abroad-cuts-a-view-from-the-inside/>

<https://thepienews.com/us-study-abroad-takes-major-step-to-protect-federal-funding/>

< 韓国:財政危機にある私立大学に対する政府の閉鎖命令を可能とする法律が成立 >

韓国では少子化の中で深刻な財政危機に陥っている地方の私立大学（いわゆるゾンビ大学）に対して政府が閉鎖を命ずる権限を付与するか否かが過去 15 年間にわたって何度も国会で議論されてきましたが、7/23 にこれを認める法律がついに成立しました。2026 年 7 月に施行されます。特に争点となったのは設置者に対して残存資産の最大 15%を支払うことです。政府から多額の補助金を受け取りながら経営に失敗した設置者に報酬を与えるのは不適切との意見がこれまで根強くあったのですが、急速な少子化の進行の中で与野党の合意に至ったとのこと。韓国の 18 歳人口は 2015 年から 2024 年までの間に 66 万人から 43 万人へ 30%減少し、2040 年にはさらに 40%減の 28 万人になると推定されています。教育省関係団体の 2024 年の調査によれば 280 の私立大学のうち 14 が既に財政危機にあるとされています。しかし、高等教育関係団体からはたんに経済的に弱い大学を排除するのではなく私立大学のアカウンタビリティを強化する総合的なマスタープランが必要との声も上がっています。

<https://www.universityworldnews.com/post.php?story=20250815125600612>



<ドイツ:DAAD が留学生に対する意識調査報告書を公表>

ドイツ学術交流会 DAAD は 2023-24 年に全国の約 38 万人の留学生のうち 2 万 1 千人に対する詳細な意識調査を実施しその結果を公表しました。ドイツを選んだ理由のトップスリーは廉価な授業料、魅力的なキャリアパス、英語プログラムの存在となっています。2/3 の留学生が卒業後もドイツにとどまることを希望していますが、就業の準備は十分でなく、キャリアサービス、語学コース、ビジネスとのコンタクト提供などのサポートを求めています。DAAD は連邦研究省より 1 億 2 千万ユーロの補助を受けて 2024 年から 100 以上の大学の留学生に対するキャリアプロモーションの支援を開始しているとのことです。

DAAD は特に STEM 分野の留学生の重要性を強調しています。ドイツ人学生の STEM 分野の学生数は 2013-23 の 10 年間に 24%減少しましたが、留学生数は 95%増加しており、起業志向も高いとのこと。

また、留学生の 52%が卒業後も大学の所在州に、36%が所在地域にとどまることを希望しており、地域振興の観点でもインパクトがあると指摘しています。

<https://www.universityworldnews.com/post.php?story=20250728123653947>

https://static.daad.de/media/daad_de/infos-services-fuer-hochschulen/expertise-zu-themen-laendern-regionen/daad_fachkraefte_factsheet_engl.pdf

<大学マネジメントに役に立つ！>

情報誌合冊版 国立大学リスクマネジメント情報 2014.12-2021.12



<目次>

- I. ニュースから見た大学のリスク
- II. 国立大学と損害保険
- III. 国立大学リスクマネジメント情報
一冊 2,000 円(消費税込) 送料別

弊社 HP からお求めください。<https://www.janu-s.co.jp/books.html>

配信について

本誌は、各国立大学・大学共同利用機関の国大協保険ご担当者、国大協連絡登録先、ご登録いただいた方にメールで配信させていただきます。(無料) 配信登録、解除は弊社ホームページからお願いします。⇒ <https://www.janu-s.co.jp/>

情報提供のお願い

各大学等でのリスクマネジメントに関する取組み、事故・事件への対応のご経験、ご感想、ご要望等をお寄せください。
⇒ info@janu-s.co.jp

バックナンバー

- 25. 7月 高圧ガスの危険と安全対策
 - 25. 6月 大学のリスクと国大協保険
～ ④賠償事故に対する保険適用の基本
の考え方 ～
 - 25. 5月 大学のリスクと国大協保険
～ ③自然災害、火災以外の財産被害 ～
 - 25. 4月 大学のリスクと国大協保険
～ ②火災による財産被害 ～
 - 25. 3月 大学のリスクと国大協保険
～ ①自然災害による財産被害 ～
- ※弊社ホームページからダウンロードできます。

発行 有限会社 国大協サービス

東京都千代田区神田神保町一丁目 4 1 番地

協力 三井住友海上火災保険株式会社